

「東アジア古典文献コーパスの研究」共同研究班報告

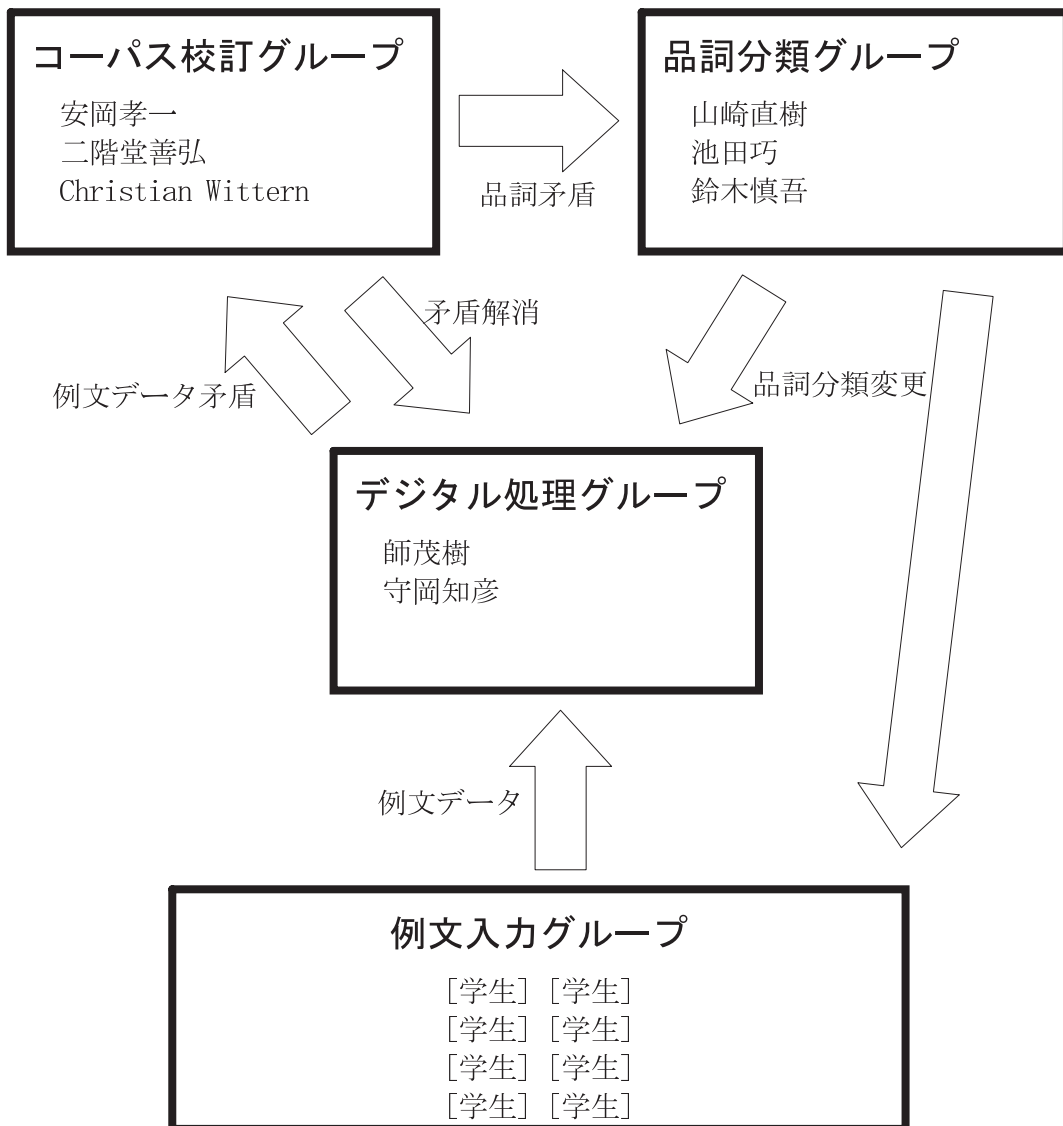
はじめに

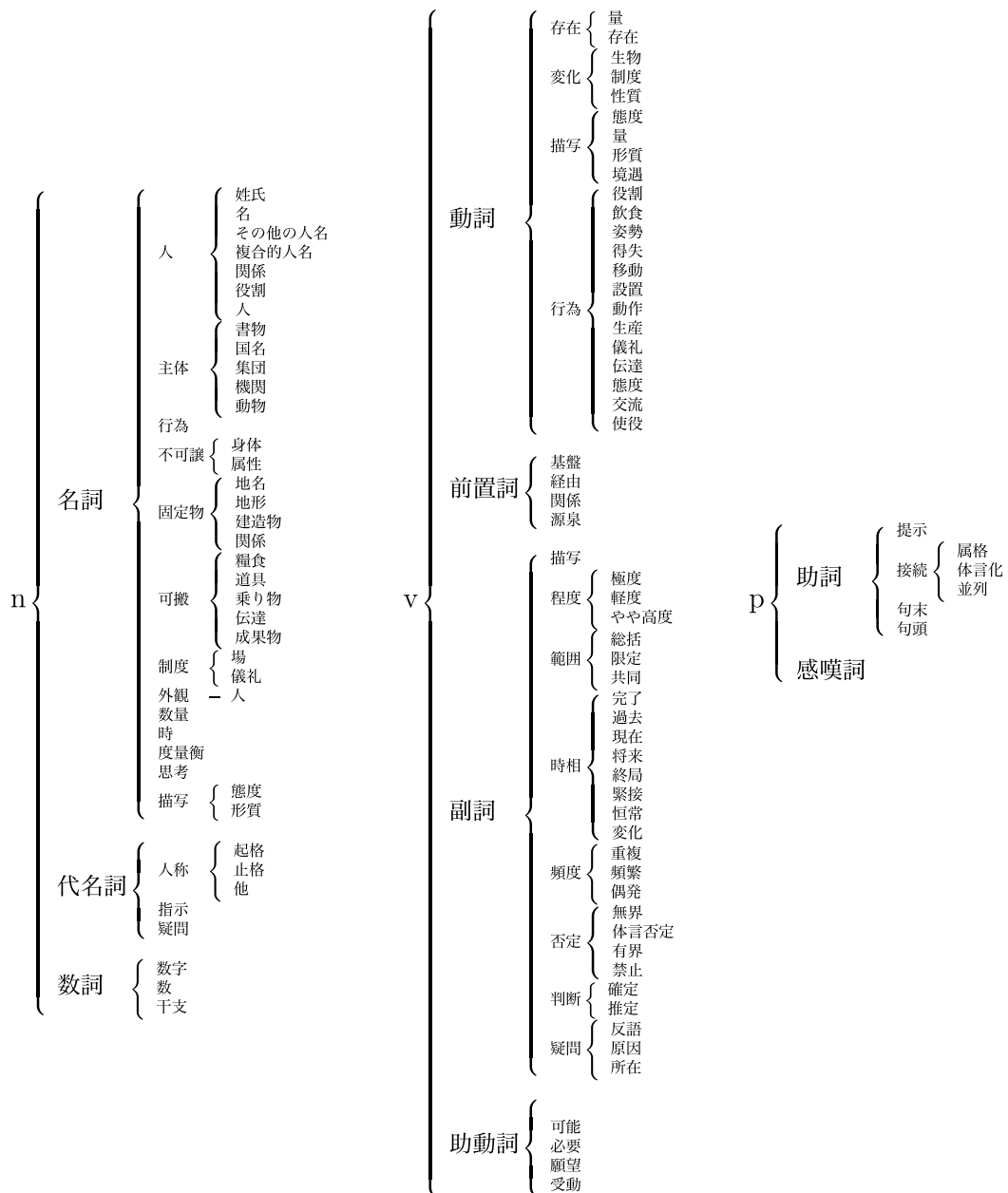
2008年4月から2013年3月にかけて、われわれは「東アジア古典文献コーパスの研究」共同研究班(班長: 安岡孝一)を組織し、漢文解析に向けたコーパスの研究をおこなった。この共同研究班は、2008年3月に終了した「漢字情報学の構築」班[1]での、白文自動「点」打ちプロジェクトでの知見を受け、漢文の自動解析に特化しておこなわれた研究班である。

韻文の自動解析に向けて

漢文の自動解析に際し、先の「漢字情報学の構築」班の知見として、韻文と散文では全く文章構造が異なっており、それぞれに異なるアプローチを要することが、明らかになっていた。

散文の自動解析に向けて





おわりに

新規に「東アジア古典文献コーパスの応用研究」共同研究班を立ち上げる予定である。

参考文献

- [1] 「漢字情報学の構築」共同研究班報告, 東方學報, 第83冊 (2008年9月), pp.360-349.
- [2] 守岡知彦: MeCabを用いた古典中国語の形態素解析の試み, 情報処理学会研究報告, Vol.2008-CH-79 (2008年7月), pp.17-22.
- [3] 守岡知彦: MeCabを用いた古典中国語形態素解析器の改良, 情報処理学会研究報告, Vol.2009-CH-84 (2009年10月), No.3, pp.1-5.
- [4] Koichi Yasuoka: Toward a Syntactic Analysis of Classical Chinese Texts, Osaka Symposium on Digital Humanities 2011 (September 2011), p.34.
- [5] Naoki Yamazaki: Toward Syntactic Frame Retrieval of Classical Chinese Rhymes using Japanese 'kun' readings and Syntactic parallelism of couplets Osaka Symposium on Digital Humanities 2011 (September 2011), p.35.
- [6] Tomohiko Morioka: A Prototype of a Classical Chinese Morphological Analyzer based on MeCab, Osaka Symposium on Digital Humanities 2011 (September 2011), p.36.
- [7] 守岡知彦: 古典中国語形態素コーパス編集システムの開発, 東洋学へのコンピュータ利用, 第23回研究セミナー (2012年3月), pp.75-83.
- [8] 山崎直樹, 守岡知彦, 安岡孝一: 古典中国語形態素解析のための品詞体系再構築, 人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん2012」論文集 (2012年11月), pp.39-46.